

スペイン語における新語の傾向

Tendencias en los neologismos españoles actuales

佐藤邦彦

Kunihiko SATO

0. はじめに

新語 (neologismo) には大きく分けて、既存の語からの新語形成と、外部からの導入の2種類が考えられる。筆者の主要関心は前者にあるのだが、本稿では特に、スペイン語の新語から更なる新語が形成される場合について考えてみる。

筆者は Sato (2000) において、略字語 (sigla)、合成語 (compuesto)、混合語 (acrónimo) などについて考察を行ったことがあるが、本稿では、その後入手した資料も踏まえた上で、上記の他に一部削除 (acortamiento) と英語からの借用語 (anglicismo) も見てみることにする。

1. 一部削除 acortamiento

1.1. Casado Velarde (1985: pp84-5) が挙げている、伝統的な一部削除語の特徴のうち特に形態面で注目を引く点を要約すると、①末尾削除、②2音節、③パロクシトーン、④語末母音の -i への変更、が挙げられる。彼が実際に挙げている例で言うと、¹⁾ bici(cleta), cole(gio), peque(ño), poli(cía), propi(na), ridi←ridí(culo), bibe(rón), compi(nche), neuro(stenia), (sacris)tán, presi(dente), prepa(ratorio), preu(niversitario), profe(sor), capi(tán), uni(versidad), fácul←facu(ltad), moto(cicleta) (pp83-5) などはいずれも上記①～③に当てはまる。スペイン語のアクセントは、語末が母音または -n, -s の場合はパロクシトーン、語末が -n, -s 以外の子音の場合はオクシトーンとなるのが規則とされているが、上記の fácul のように、規則に反するパロクシトーンとなる場合もある。

①については例外もあるが、その数は非常に少ないとされている (例: (mu)chacho (ibid.))。

②については、Casado Velarde は「現代の一部削除」においては3音節のものが多くとして、analfa(beto), anarco←anarqu(ista), anfeta(mina), cátedro←cadedr(ático), diputa(ción), ecolo(gista), educa(ción), estupa←estupe(faciente), forasta←foraste(ro), lejía←legio(nario), machaca(nte), majara←majare(ta), masoca←masoqu(ista), moluca←moluqu(eño), pantorras←pantorri(llas), paraca(idista), proleta(rio)などを挙げている (pp88-89)。ただし、「現代の」と言っても1980年代当時の事であり、その後3音節が主流になりつつあるのかどうか、1.2. で見ることにする。

④については、末尾が -i のものが目立つという程度で、Casado Velarde 自身が指摘するように、「現代の一部削除」についてはむしろ -a が目立っている。これについても後で考察する。

1.2. もっと最近のスペイン語における一部削除を見てみよう。筆者のスペイン滞在中(2004～2005)

の経験から言うと、一部削除は特に若者を中心によく使われており、筆者が実際耳にした *cumple* (*años*), *insti(tuto)*, *pele←pelí(cula)*, *pisci(na)* といった語は、若者向きの雑誌等でもよく見かける。以下に、より新しい資料から収集した例を挙げる：²⁾

- a) 2音節で末尾が - i *cami(seta)* [W], *capi(tal)* [VO], *insti(tuto)* [DVA], *mili(cia)* [VO],
mini(coche) [DVA], *mini(falda)* [DVA], *lesbi(ano)* [DVA], *pandi(lla)* [SP3], *pele←pelí(cula)* [DVA],
pisci(na) [SP1], *publi(cidad)* [VO]
- b) 2音節で末尾が - i 以外 *bille(te)* [DVA], *cole(cción)* [W], *compa(ñero)* [W], *dibu(jo)* [CP],
cumple(años) [SP2], *disco(teca)*, *díver←diver(tido)* [VO], *frigo(rífico)* [VO], *homo(sexual)* [DVA],
mate(mática) [CP], *milqui←mil qui(nientas pesetas)* [DVA], *nica(ragüense)* [DVA],
panta(lla) [W], *panta(lón)* [W], *pelu(quería)* [SP2], *progre(sista)* [DVA], *prota(gonista)* [DVA],
rasta(fari) [DVA], *seño(rita)* [VO], *suje(tador)* [SP3], *súper←super(mercado)* [VO],
vaca(ción) [SP3]
- c) 3音節のもの *hetero(sexual)* [DVA], *manifa←manifestación* [VO],
teleco(municación) [DVA]
- d) 語頭削除のもの *bus←(aubo)bús* [VO], *(violon)chelo* [VO]
- e) その他 *tupi←estúpido* [CP], *alucine←alucinación* [DN]³⁾

見ての通り、圧倒的に語末削除の2音節のものが多い。Valera Ortega (2005) も、*manifa*, *paraca* など3音節の例を挙げつつも2音節傾向を指摘しており (p91)、この傾向は保たれていると言ってよい。尚、d) で挙げた例については、他と同じレベルで新語とは言えないかも知れないが、語頭削除の例として Valera Ortega (op.cit.: p90) が挙げているので、参考までに紹介しておくことにした。Casado Velarde (op.cit.) でも指摘されていたが、一部削除のための「分割の位置は、語幹や接頭辞、接尾辞といった要素の結合点に一致する必要はない」(p84)。同じ事を Valera Ortega (op.cit.) は、「純粋な音声の一部削除の場合には削除の位置が形態素の境界に一致する必要はない」(p90) と述べ、その例として *frigo(rífico)* に言及している(形態素境界に基づくなら *frigor* となるはずである)。これ以外にも上記の例の中には、形態素の境界と一致しないものが多い。本来の形態素分割に反してでも2音節でかつ第2音節が開音節という形式を取る傾向があるようだ。

ところで、Valera Ortega (ibid.) の言う「純粋な音声の一部削除」ではない場合というのは、一部削除の結果、多くの合成語の要素として生産性の高い形態素と同じ形が得られる場合 (*fotografía* → *foto*, *motocicleta* → *moto*, *cinematógrfo* → *cine*, *metropolitano* → *metro*, *taxímetro* → *taxi*, *kilogramo* → *kilo* など) である。この他、よく知られている例としては、*mini(falda)*, *maxi(falda)*, *radio(difusión)*,

tele(visión)などがある。これらの例は形態素境界に一致した区切り方がされた上で2音節、第2音節が開音節という傾向にも合致しているが、supermercado→súperのような例も合わせて考えると、これらの教養語の形態素に関わる場合には、音節構造上の条件よりも形態素としての切り取りの方に重点が置かれると言える。homo, heteroなどもそのような例と見ることが出来る。

これとは性質がやや異なるが、合成語に一部削除が施された結果、その構成要素と同等の形が得られるという意味では、cumple(años)も興味深い(cumplir+años→cumpleaños→cumple)。この〔動詞+名詞〕型のものとしては、他に limpia(botas), pincha(discos), busca(personas)などがある (Valera Ortega, op.cit.: p78)。ここでもたまたま一部削除の結果は2音節となっているが、もととなる動詞の形を損なっても2音節にする可能性は低いと考えられる。

見ての通り、末尾が・iとなる場合が目立つが、偶然もとの語の第2音節にiが含まれている場合が多く (cami(seta), insti(tuto) など多数)、そうでなければ末尾が・iにはならない場合がほとんどである。従って、・iが一部削除特有の語尾形だとは言えない。しかし、末尾の・iへの志向の存在は否定出来ない。以前から知られている例として、licenciado→lili [DA], babero→babi [DRAE] のようなものもあるし、人名の愛称形に末尾の・iが多用されることはよく知られている (例: Pilar→Pili, Victoria→Viqui (Valera Ortega, op.cit.: p92))。一部削除ではないが、Papá→Papi, guapo/pa→guapi, pompa→pompi(s) のような、親愛表現や幼児語的表現における語末の・iも似たような例と言える。また、合成語においては連結部分、すなわち第一構成要素の末尾に・iが現れることが多く、その事と一部削除語の末尾の間に何らかの関連があるのかも知れないが、それについては2.3. で再度触れる。

1.3. さて、こうした一部削除語に基づく更なる新語の形成についてだが、これらをもとにした派生語の例は非常に少なく (progre→progrería [DVA])、定着度の高い一部のものからの派生語の例が少数見られるに過ぎない (例: cine→cineasta [DRAE], foto→fotero, fotista, fotear [W], tele→telesata, telesivo [W])。これらの派生語の基となる一部削除語の多くは、ギリシャ語源の伝統的な形態素に対応し、現代語においても合成語の構成要素として生産性の高いものである。⁴⁾

一部削除語からの派生が少ない理由としては次の2点が考えられる。第一に、もとの語からの派生語が既に存在していたり、もととなる語が既に何らかの派生語であるなど、一部削除語から派生語が形成される必要性が低い場合が多い: colección→coleccionar, coleccionista; cole→×, cumpleaños→cumpleañero; cumple→×, película→peliculero; peli→×, pelo→peluquero, peluquería; pelu→×、など。次に、一部削除自体が一過的なものであって、語彙体系への組み込み度が低いという見方も出来る。Martín Camacho (2004) は、「このプロセスは新しい語彙単位を生産せず、よりくだけた口語的な文脈の中で既存の語の変異を生産するに過ぎない」と述べている (p41)。彼が扱っている例には、apendi(citis), polio(mielitis), fenendo(scopio) といった特殊な分野の専門用語が多く含ま

れるので、「くだけた口語的な文脈」というのは必ずしも「卑近な日常会話」ということでなく、例えば専門家どうしの隠語のようなニュアンスが含まれていると考えられる。それは、日常的な一部削除語が例えば学生や若者どうしの会話で多用されるのと同じ事なのであろう。

一過的とは言え、上に見た一部削除語の傾向には、コミュニケーションの現場において、話者が馴染み深い概念を経済的に表現しようとする際の言語直観が反映されている、と考えられる。

2. 合成語と混成語 *compuestos y acrónimos*

2.1. 合成語にはいくつかのタイプがあるが、本稿では特に、もとになる語を併置したもの(例: boca+calle→bocacalle; 結合部で若干の音変化を起こす場合も含む(例: alto+bajo→altibajo))、語の部分どうし(あるいは少なくともどちらか一方がある語の断片である)を組み合わせたもの(例: policía+militar→polimili)のようなタイプのものについて見ることにする。ところで後者については、混成語との区別が不明確で、先行研究によって用語法にも差異があるが、筆者は基本的に Casado Velarde (1985) に準じ、第一要素の先頭部分と第二要素の末尾部分の組み合わせによるものを混成語(*acrónimo*)と呼ぶことにしている。すなわち、secretaria+azafata→secretafata は混成語で、上述の polimili は合成語として扱う。⁵⁾ ここでは特に、[DVA] から収集した、一部削除語または語の断片を基にした合成語の例と、若干の注目に値する現象について問題にする。

a) 一部削除語との合成 (2.1. 全体を通して、特記しない限り例は [DVA] からのもの)

(bici(cleta)→) bicicross, bicimensajero, bicitaxi, biciexpres (bolígrafo→boli→) bolidedo

(cine(matógrafo)→) cinéfilo [DRAE], cinemerienda, cinescopio, cinestudio, cineterapia

minicine, supercine

(hipermercado→híper→) hipermentira⁶⁾ (mili(tar)→) militonto

(moto(cicleta)→) motocine, motoesquí, motomanía, motonieve

(foto(grafía)→) fotoacabado, fotocollage, fotocontrol, fotodenuncia, fotoemulsión, fotoestalinismo,

fotofijo, fotoidentificación, fotointerpretación, fotomodelo, fotonoticia, fotoperiodismo,

fotoperiodista, fotorreportaje, fototeca, fototexto

(radio(difusión)→) radioafición, radioarte, radioayuda, radiobúsqueda, radiodespertador,

radiofórmula, radiolector, radiomensajería, radiopatrulla, radiopredicador, radioseñal,

radiotelevisión, radiotertulia

(tele(visión)→) teleadicto [DN], telebasura [DN], teleastrólogo, telebomba, telecámara,

telecárcel, telecasa, teledenuncia, teledinero, telefarmacia, telefútbol, teleindiscreción,

teleingresar, teleleñazo, telemamachicho, telemanía, telemarujeo, telemorralla, telenoticias,

telepantalla, teleperiodista, telepresencia, telepromoción, telerosa, teletaquilla

b) 語の断片（ただし一部削除語ではない）との合成

((bi)cicl(eta)→) ciclofobia, ciclomotor, ciclomotorista, cicloperegrino, cicloturismo, cicloturista

(docu(mento)→) docucomedia, docuserie

(info(rmación)→) infoartefacto, infoentretención, infografía, infoelectrónico, infoguerra,
infoimplemento, infojerga, infopista, inforruta, infoteca, infotecnológico

(petro(leo)→) petrocasa, petromonarca; (visió(n)→) visioterapia

a) では、構成要素となる一部削除語が2音節なのだが、b) に見るように、一部削除語が成立していない場合においても、合成語の第一要素が2音節で第2音節は開音節、という傾向がある（本来の形態素境界と一致しなくても良い）。このように、合成語の第一要素と一部削除語との間には共通した傾向が見られる。ただし、información については *inforpista* [DVA] のような例もあり、常にこの傾向が当てはまるわけではない。*híper*, *ciclo* については、今述べた傾向とは無関係に、形態素の切り出しが重視されたケースだと考えられる（1.2. の *súper* などと同様）。ちなみに、*teletuboldólar* のような、合成語を基にした合成語も存在する。

合成語の第二要素が、スペイン語の語として容認可能な語尾形態を有する場合、通常の語と同様、接尾辞による派生語が形成され得る：*bicimensajero*→*bicimensajería*, *cicloturismo/cicloturista*→*cicloturístico*, *cinéfilo*→*cinéfilonauta* [DVA], *cinéfilia* [W], (*cinéforum* [DN]→) *cineforo*→*cineforero* [W], *fotonovela* [DRAE]→*fotonovelistas*, *fotonovelesco* [W], *fotoperiodismo*/ *fotoperiodista*→*fotoperiodístico* [DVA], *radiotelevisión*→*radiotelevisar*, *radiotelevisivo* [DVA], *teleadicto*→*teleadicción*, *teleadictivo* [DVA], *telebasura*→*telebasurero* [DVA], *telenoticia* [DN]→*telenoticiario*, *telenoticiario* [W], *telenovela* [DN]→*telenovelistas*, *telenovelas*, *telenovelesco* [W] など。言い換えれば、合成語の第2要素が語、または語の末尾部分というパターンの方が、一部削除語や語の先頭部分を第2要素にする場合よりも派生語が作られやすいということである（cf. *mecanógrafo*→*mecanografía* は可能だが、*taquígrafo*+*mecanógrafo*→*taquimeca*→**taquimequia*）。

2.2. 混成語については、[DVA] には次のような例が見出される：*briconsejo*←*bricolage*+*consejo*, *cantactor*←*cantante*+*actor*, *dramedia*←*drama*+*comedia*, *flamencólico*←*flamenco*+*melancólico*, *hipanalgia*←*hispano*+*nostalgia*, *motoneta*←*moto*+*furgoneta*, *plasturgista*←*plástico*+*metalurgista*, *musicasete*←*música*+*casete*, *portofol*←*portugués*+*español*, *sexperto*←*sexo*+*experto*, *teleñeco*←*televisión*+*muñeco*。なお、差し当たりここには混成語からの派生語は含めていない。また、外来語に関しては、*glocal*←*global*+*local*, *telemático*←*telematic* のような、原語で既に混成語となっ

ていたと考えられるものは除外してある。ただし、上記の *briconsejo* は *bicolage* がスペイン語に導入された後にスペイン語独自に形成された混成語と考えられる。

合成語の場合と同様に、第二要素が通常の語の語尾形態と同様のものを有していれば、接尾辞による派生語が形成され得る：*(cantante+autor→) cantautor→cantautoril, cantautorismo* [DVA], *cantautoría* [W], *(Cataluña+España→) Cataluña→catalañol, (oficina+informática→) ofimática→ofimatizar* [W], *telemático→telematizar* [DVA]。

2.3. 「つなぎの-i-」の問題

Sato (2000) でも触れたが、合成語には連結部（もしくは第一要素の末尾）に母音 [i] が現れる場合が多いと言われている。Alvar Ezquerro (1994) はこれを、ラテン語属格に由来するもの (*pelirrojo* = *rojo de pelo*)、⁷⁾ 単なる接続の *y* に由来するもの (*carricoche* = *carro y coche*) とに分けている (op. cit., 4.1.4.)。これに従うなら、[DVA] に収録されている *-i-* を含む例のうち、(*cuerno→) cornialto, corniastado, cornidelantero, corninegro, (esponja→) espongeiforme, (hoja→) hojiblanca, (nariz→) narirrito, (toro→) toricida, (urbano→) urbicidio* などは属格由来型、(*blanco→) blanquiazul, blanquinegro, blanqui-rrojo, blanquivioleta, (franja→) franjirrojo, franjiverde, (rojo→) rojiblanco, rojinegro, rojiverde* などは接続詞由来ということになる。しかし、*-i-* の出現をそのように割り切るのを躊躇させるケースがいくつかある。まず、(*fin de milenio→) finimilenio, (fin de semana→) finisemanal* [DVA] においては格関係が逆転していることになる。むしろ、いかにも伝統的な合成語らしい響きを出すために *-i-* を挿入しているとも考えられる。その点、Lang (1990) の言う「音声美学的要因」(p.203) も無視出来ない。更に、合成語の第一要素が語の先頭部ないし一部削除語である場合、偶然末尾が *-i* となる場合が多い (*polimili, taquimeca* など；[DVA] には *navifobia* (←*navidad*), *musiteca, musivideo* (←*música*) などの例が見られる)。また、伝統的で生産性の高い接頭辞の中には、*multi-, pluri-, uni-, bi-, tri-, mini-, maxi-, anti-* など、末尾が *-i* であるものも少なくなく、結果的に、連結部分に *-i-* を伴う語彙が多く見出せることになる。こうした様々な要因による類推から「合成語らしい形式」に関する直観が形成されていると考えることは出来ないだろうか？そして、この *-i-* に加えて、2音節、開音節など、一部削除語もまた、合成語第一要素にふさわしいと感ぜられる形にする志向があるのかも知れない。

3. 略字語 *sigla*

略字語については一度 Sato (2000) で扱った。詳細はそちらを見て頂くとして、まずは本稿にとって重要な点だけ要約しておこう。略字語も、頻繁に使用されることによって、通常の語のような様相を呈し、略字語からの派生語も形成される場合がある。略字語からの派生の特徴としては、次の点

が挙げられる。まず派生以前の問題を言うと、略字語には団体・組織名の類が多いが、意味論的に言えばメトニミーの作用によって、当該団体・組織の成員やその会社の製品などを意味する一般名詞になる場合がある。例えば GRAPO (Grupos Revolucionarios Antifascistas Primero de Octubre) はその成員を表す一般名詞 *grapo* となり、女性形 *grapa* も作られるようになる。SEAT (Sociedad Española de Automóviles de Turismo) が同社製の自動車を表す一般名詞 *seat* になる。更に、当該組織の成員、それに関連する事項(とりわけ政治的団体の場合は思想)を表す名詞・形容詞が派生する(例: CIA→*ciático*, ONU→*onuario*, *onuiano*, UCD→*ucedéista*, *ucedista*, *ucedero*, *ucediano*)。当然予想されるように、-(t)ico, -(i)ano, -ero, -ista などの派生語尾が多用される。また、UCD→*ucedificar*, *ucedificación*, CNT→*cenetear* のように、動詞やその名詞形といったように、派生系列が拡張する場合もある(ここに挙げた例はいずれも Casado Velarde (1979) からのもの)。

[DVA] に収録されている例を見る限り、最近の略字語に関して目だって新しい傾向は特に見当たらない。ここでは、断片的ではあるが、目に付いた若干の事柄にだけ言及しておこう。略字語の末尾が -O や -A の場合、これをそのまま人間を表す一般名詞にする場合がある: INSERSO (Instituto Nacional de Servicios Sociales)→*inverso/sa*, UEFA (Union of European Football Association)→*uefo/fa*。略字語の末尾はこれらと異なるが、ELN ([eléne]: Ejército de Liberación Nacional)→*eleno/na* のようなものもある(例はいずれも [DVA])。SIDA からの新語としては Guerrero Ramos (1995) で *sidafofia* が紹介されているが、[DVA] には *sidatorio*, *sídico*, *sidoso* などが載っており、この語が略字語という段階から抜け出して通常語彙化しつつあることを窺わせる。最近のコンピュータや電器関連の用語には略字語が多く見られるが、これらからの派生語も若干見られる: CD/cedé→*cedetera*, PC/pecé→*pecero*, DVD/deuvedé→*deuvedero* [W]。PC は、これをそのまま形容詞的に用いる場合と、派生形容詞形を用いる場合とがあり、形容詞 *pecero* が定着するかどうかの過渡期にあることを窺わせる: *juego PC*, *estilo muy PC*; *DVD pecero*, ... *he sido muy pecero hasta ahora* [W]。

4. 英語からの借用語 *anglicismo*

スペイン語には相当な数の *anglicismo* が入り込んでいるようだが(記述・報告されている例については、[NDA], Gómez Capuz (2000), Medina López (2004), Rodríguez Segura (1999) などを参照されたい)、その全体をここで概観する余裕はない。ここでは、*anglicismo* からの派生を中心としていくつかの問題点を指摘するにとどめる。

4.1. 派生以前の問題として、Rodríguez Segura (1999) が *anglicismo patente* (p39) と呼ぶものがある。これは *aftershave*, *film*, *party* など、もとの英語の形のままスペイン語に導入されているものだが、こうした語が広範囲に用いられる理由としては、その多くが名詞であるのに加え、スペイン

語では名詞をそのままの語形で形容詞的に使うことが出来るといったことが考えられる。forma huevo, camión cisterna における huevo, cisterna と同様に、música dance [SP1], una chica mega fashion [SP2], lo más pop [PSM] のような形容詞的用法が可能なのである。形容詞以外のものも、意味的に名詞を修飾する限り、同様の使い方がなされることがある（例：las prendas más “in” de la temporada [広告]）。これは、略字語がそのまま形容詞的に使える場合と同じことであろう。英語の略字語もスペイン語の略字語も、anglicismo patente も、この点では同じような振る舞いを見せる：

música dance lo más pop （上掲例）

un estilo muy PC. el estilo OT (=Opeación Triunfo) [W]

Tu música se acerca más al pop facilón a lo OT que a hip hop. [W]

Recopilé sus datos a lo «C.S.I.» (=Crime Scene Investigation) [SP2]⁸

4.2. もちろん、接尾辞を伴った派生語も多数存在する。例えば当該の事物に関連する《人》を表すことを明確化するには pop→popero [NDA], popista [W] のように相応の語尾が必要だろうし、こうした語形が成立すれば、anglicismo patente のまま pop を形容詞的に使う頻度も減って、新たな形容詞形が普及してゆくということも十分に考えられる。また、動詞の場合は定・不定形を問わず、スペイン語の文法体系に合致した形でなくてはならないので、必要があれば動詞形は次々に作られることになる（例：approach→aprochar, blind→blindar, business→bisnear [NDA] など）。

ところが、anglicismo からの派生を考える上で、注意すべき点がある。例えば customizar, customización [NDA] は、英語から導入された名詞 custom に基づく派生語がスペイン語内で形成されたというよりは、英語の既存の派生語 customize, customization をスペイン語に導入したものと見るべきである。つまり、派生語を借用する場合、原語の派生語尾に対応する派生語尾をスペイン語既存のものから選択するわけで、言わば「形態素の翻訳借入」(calco morfológico (Rodríguez Segura (1999: p70)) である。この観点からすると、reporter→reportero や ecologist→ecologista 等に関して「-o や -a などの最低限の接尾辞を付加して導入された」(Rodríguez Segura (op.cit.: p42)) というのは誤りで、むしろ形態素レベルで -er→ero, -ist→ista という置き換えがなされたと考えるべきだろう。nursery→nursería [DVA] など同様のケースと言える。

形態素の翻訳借入は、現代スペイン語において少なからぬ影響をもたらす可能性がある。Rodríguez Segura (op.cit.: pp70-72) が挙げている例の中には、英語からの形態的翻訳借入の結果、従来のスペイン語の語との競合が起こっているものがいくつかある(comunicacional/comunicativo, conservativo/conservador, emocional/emotivo, lexical/léxico, operacional/operativo, portable/portátil, procedural/procesal, signficante/significativo : 各ペアの第一のものが英語からの借用形)。ここで目立っているのは、動詞の形容詞形における、旧来の -ivo 型と〔名詞形+al〕型のものの競合で

ある。この事は恐らく、Guerrero Ramos (1995) が現代スペイン語で多用される動詞化接尾辞として *-ionar* を、名詞化接尾辞として *-ción* を挙げている (pp30-1) こととも関連すると思われる。確実なことは言えないが、英語の影響により、*-(c/s/t)ión*, *-(c/s/t)ional*, *-(c/s/t)ionar* 型の派生語が多用され、逆に、旧来からの [(主に過去分詞由来の語幹) + *ivo*] 型のものがすたれる傾向が生じつつあるのかも知れない。

4.3. 英語の語幹にスペイン語の接尾辞を付加した語を、Rodríguez Segura (op.cit.) は *anglicismo híbrido* と呼んでいる (p40)。これにも注意が必要である。彼は例えば *chute* (←*chut*←*shoot*) のようなものもこれに含めているが、この語尾要素 *-e* は接尾辞ではなく、単にスペイン語として受容するための音韻的修正と考えるべきであろう。また、明らかに接尾辞の形を取っている場合でも、一旦導入された *anglicismo* からの新たな派生というより、当初からスペイン語の接尾辞を付加して導入されたかも知れないと思われる場合がある。例えば、[NDA] は、*dopar* について、動詞 *dope* からではなく、名詞 *doping* からの逆成である可能性があるとしている。そうだとすれば、動詞 *dope*→*dopar* から名詞 *dopaje* が派生したのではなく、名詞 *doping* の導入当初において、*-ing* に対応する接尾辞として *-aje* を付加してこの語が導入されたのではないかと疑う余地がある。ちなみに、[DVA] では、見出し語 *doping* の語義説明として *dopaje* を与えており、*anglicismo patente* としての *doping* よりも *dopaje* の普及の方が早かったという可能性もある。特に、末尾が子音の英語を語幹とし、例えば *-tion* ~ *-ción*, *-ment* ~ *-mento* / *-miento* といった形態素対応の見出せない英語の名詞 (多くの場合、動詞・名詞同形か、*-ing* で名詞化する) に関しては、この *-aje* と並んで *-eo* が付加される場合が非常に多い: *boxing*→*boxeo*, *check*→*chequeo*, *clamp*→*clampaje*, *crack*→*craqueo*, *deal*→*dileo*, *scan*→*escaneo*, *fashion victim*→*fashionvictimeo*, *flirt*→*firteo*, *pickling*→*piclaje*, *plot*→*ploteo*, *test*→*testaje* (以上 [NDA]) , *blind*→*blindaje*, *block*→*blocaje*, *chat*→*chateo*, *click*→*clickeo*, *stock*→*estocaje*, *map*→*mapeo*, *monitor*→*monitoreo*, *paddle*→*padeleo*, *sample*→*sampleo* (以上 [DVA]) , *zap*→*zapeo* [DVA, NDA] ((ただし *zapping*→*zapineo* [DVA])。この中には、動詞形との対応が確立している (*-aje* ~ *-ar*, *-eo* ~ *-ear*) ものも多数あり、その各々について、動詞から *-aje*, *-eo* 型の名詞が派生した場合、これらの名詞から動詞が派生した場合、のいずれかを見極めることは困難である。*bluff*→*blufear*, *chart*→*chartear* [NDA] のように、動詞形はあるが対応する *-eo* 型名詞が載っていないものについては、動詞の派生が第一に起こったケースと考えてよいだろう。

なお、*approach*→*aproche*, *shoot*→*chuta*, *chute*, *drop*→*drope* の様に語尾に単一母音を付加して導入した名詞の場合、その動詞形はおしなべて *-ar* である (*aprochar*, *chutar*, *dropar*: 例は全て [NDA])。

5. 結語

様々なタイプの新語全般にわたる傾向の総括は出来ないものの、各々のタイプについては、案外スペイン語本来の特徴に準じた志向性があること、しかしその反面、派生語形成の際の接尾辞選択の傾向に変化が生じつつあるとも推測できること、などが分かった。

注

- 1) 緩りに変化が生じるなどの問題点がない限り、削除される部分を()内に入れた上で基になる語を記す。
- 2) 資料源は以下の通り： [CP] *Comunicación personal* [DA] *Diccionario de Argot*
[DN] *Diccionario de Neologismos de la Lengua Española*
[DRAE] *Diccionario de la Lengua Española* (de RAE)
[DVA] *Nuevo Diccionario de Voces de Uso Actual*
[NDA] *Nuevo Diccionario de Anglicismos* [PSM] Revista *Popstars* (suplemento *MLA*, 2/9/2002)
[SP] Revista *Súper POP* (1=n°687(2004), 2=n°690(2004), 3=n°716(2005))
[VO] Valera Ortega, 2005 [W] página WEB
当該の例が複数の情報源にまたがる場合には、文字化された資料がある場合はそれを優先的に記す。辞書・研究書類の場合は、原則として古いものを優先的に記すことにする。
- 3) [DN]には *alucine* の基の語の説明はないが、[DRAE]が *alucine* の語義説明として *alucinación* を挙げていることから、これが *alucine* の基となる語である推測した。
- 4) そのためこれらの形態のステータスは、語彙化した一部削除語と、旧来通りの接頭辞との間で揺れを示す。特に *tele* については Sato (2001) も参照されたい。
- 5) [接頭辞+語の末尾部分] のもの(例： *telemático*←接頭辞 *tele*+*informático*)や、第二要素が完全形の語のように見えても、第一要素との音の重合が見られる場合(例： *briconsejo*←*bricolaje*+*consejo*)も、混成語に含めることにする。
- 6) これは *mentira en torno a un híper* の意味で、《とんでもない嘘》の意味ではない。
- 7) 実際的には *de pelo rojo*(赤毛の)と言い換えられるが、構造的には *rojo de pelo*(毛に関して赤い)である。
- 8) “Operación Triunfo”, “Crime Scene Investigation” はともに、テレビ番組のタイトル。

参考文献

- Alvar Ezquera, M., 1994, *La formación de palabras en español*. Madrid. Arco Libros.
---- (dir.), 2004, *Nuevo diccionario de voces de uso actual*. Madrid. Arco Libros.
Casado Velarde, M., 1979, “Creación léxica mediante siglas”. *Revista Española de Lingüística*, 9, pp67-89.
----, 1985, *Tendencias en el léxico español actual*. Madrid. Coloquio.
Gómez Capuz, J., 2000, *Anglicismos léxicos en el español coloquial*. Cádiz. Universidad de Cádiz.
Guerrero Ramos, G., 1995, *Neologismos en el español actual*. Madrid. Arco Libros.
Lang, M.F., 1990, *Formación de palabras en español*. Madrid. Cátedra.
Martí Antonín, M^a. A. (coord.), 1998, *Diccionario de neologismos de la lengua española*. Barcelona. Larousse.
Martín Camacho, J.C., 2004, *El vocabulario del discurso tecnocientífico*. Madrid. Arco Libros.
Medina López, J., 2004, *El anglicismo en el español actual*. Madrid. Arco Libros.
Real Academia Española, 2003, *Diccionario de la lengua española*. Edición CD-ROM. Madrid. Espasa-Calpe.
Rodríguez González, F., 1997, *Nuevo diccionario de anglicismos*. Madrid. Gredos.
Rodríguez Segura, D., 1999, *Panorama del anglicismo en español*. Almería. Universidad de Almería.
Sanmartín Sáez, J., 1998, *Diccionario de argot*. Madrid. Espasa-Calpe.
Sato, K., 2000, “Notas sobre las siglas y acrónimos del español y su evolución léxica”. 『スペイン語学研究』 15. pp1-21
----, 2001, “Neologismos con *tele* --- ¿prefijación, composición o acronimia?”. 『スペイン語学研究』 16. p19-36.
Valera Ortega, S., 2005, *Morfología léxica: la formación de palabras*. Madrid. Gredos.